

# 教職あらかると

## わたしの道徳授業 No.6

2020.06 後藤 忠

### <わたしの道徳授業 11月号 1980年>

#### 1 教え子に教えられて

多忙をきわめていた1学期末、1通のなつかしい手紙が舞い込んだ。7、8月号で紹介した初めて学級担任をして中学校へ送り出した子どもからであった。坂梨理恵。まん丸な心のやさしい子だった。手芸が好きで、私の子どもが生まれたときにさるのぬ

いぐるみ人形を作ってくれた。学習成績はあまりよろしくなかった方だし、いつもおとなしく目立たない子だったけれど、なにより友だちといるのが一番好きな子だった。プーさんというあだ名で、そのあだ名が気に入っていた。小学校卒業と同時に千葉へ引っ越したが、その後、クラス会などで2回会ったかな。もう高校2年生である。(注:今は56歳である)

忠君元気ですか。皆様もお元気ですか。私の家族も皆元気です。特に私ははちきれんばかりです。

ところで、突然であります。むしように先生に会いたくなりました。なんかさみしくて……。愛吟集(歌集)なんか引っぱり出してきて歌ってみたけど、半分くらいしか歌えなかった。忘れちゃうって寂しいですね。

卒業アルバムもみてみました。みんなかわいいネ(今もだけど)。あのころは卒業アルバムもただ漠然としか見てなかったけど、今読みかえてみると、一人一人の先生方の言葉がとてもあたたかくて、涙が出てきちゃった。がんばらなくっちゃってしみじみ思った。後藤先生の解剖図なんてみると、なにもかも楽しくて、しょうがなかったみたい。先生のこと、ほんとに友達かお兄さんにしか思えなかったようだし…自分の心がほんとに澄んでたなって思うよ…。

今なんか先生に何言われても「はい、そうですか」で終わり。心から反省しようって気が全然ないんだ。そうとうひねくれちゃったみたい。昔なんか、おこられたらその言葉がすごく重く感じたもんね…。先生なんか、すぐ涙こぼしておこるんだもん。私も一緒になって泣いちゃった、エヘ。

私にとっては理想そのものの先生だったな!!きっと今でもそうですよネ。

だからって、あのころにもどりたいなんていわないよ。今を一生懸命生きるのです……。ヌハハハ。

高校の先生ってすごくそっけないの。ただスーッと来てスーッと帰るだけだから、ほんとの親密感なんて全然なし。つめたいよ～。

なんか愚痴ばかりになってきちゃった。でもだれかにきいてもらいたくて……。

今ね、原付の免許取ろうと思ってんだ。私、バイク大好き♡ <暴走族には入っていませんよ>

だけど大きいには乗れないから、50ccにのるの。それで友達と近くの海に行って花火をやるのが楽しみなのです。

それから、うれしいお知らせ。この前のテストで10番になりました。うそみたいでしょう。(クラスでね) ちなみに1年生の時は40番くらいだったのです。

あとね、ネコも飼ってるんだ、1年前から。すごく小さいときに拾ってきたから、死んじゃうかと思ったけど、今は4kgもあるんだよ。名前は「姫ちゃん」、私に似ておでぶちゃん。目がたれててかわいいですよ。

くだらないことばかり書きちゃってゴメンナサイ。

先生、おぼえてるかなあ…。寂しい時、つらい時があったらいつでも俺のところへ来てくれて言ったの。私、忘れてないよ。あのころのことみんなおぼえてるんだ。(執念深いんだぞ～お。)

あっ!!そうだ。こんどいつクラス会あるのかな。早くみんなに会いたいなあ。それでは奥さんのこと大事にしてネ。もちろん子どもちゃんもネ……大きくなったでしょう。ジャアネ、バイバイ 里恵でした。

私はこの手紙に感動し、同時に今の自分が恥ずかしく身がすくむ思いがした。

私はすでに過ぎてしまったあの青春の胸苦しさが、今彼女らをつつみ込んでいる。燃えさかる身体

のエネルギーを精神がコントロールできないもどかしさ、息苦しき。何というのか、あの状態を。でも、「今を一生懸命生きるのです」という、よりよく生きようとする働きをちゃんともっている。苦しいだろうなあ、つらいだろうなああと共感できるのだが、その苦しみを代わりに請け負ってやることはできない。本人の人格は、本人自身によってのみ築かれるのであるから、そのために支払われる代償や犠牲がどんなに大きくても、砂漠に水を発見した時の喜びには代えられないだろう。がんばれ、里恵と祈った。

一方、私は全くお恥ずかしい限りである。

あの子たちを卒業させた日、私は後悔と情けなさどすまなさで一晩中泣いた。小学校卒業おめでとうなんて気持ちは全然なかった。

経験が浅く、いつもまごまごして、学習指導も生活指導も効率が悪く、何をやっても下手だった。ベテランの先生の、子どもの動かし方のうまさを見ては自己嫌悪に陥っていた。「早く歳を取りたい。自分みたいな下手くそな先生に教えられる子供がかわいそうだ。子どもには教師を選ぶ権利がない。俺のような教師が担任をするのは罪だ」と。

それから懸命に求めたのが教育技術、教育を科学として求めることである。道徳授業を窓口にして、学級経営の構造化を図ったり、学習指導過程の吟味に熱中したり。教育の押さえどころとか、要領とか、そんなものをひたすら求めた。

今の学級経営は、あのころとは比べものにならないくらいうまくいっている。ところがどうだ、その安定感にドッカと腰を下ろして、その安住に甘んじているのではないか。なんという醜悪さだろう。

その証拠に子どもと一緒にいる時間がめっきり減った。放課後遊びもやらず、学習の遅れが目立つ子どもの個別指導すらできていない。それが成長だ、進歩だと言えるのか。教師としての力量が技術的に増したとはいえ、「私にとって理想そのものの先生」からはほど遠くなってしまいました。こういう成り行きは仕方がないことなのか？（だいたい、この原稿を書いていること自体恥ずべきことなんだ。）

## 2 教育技術って何だ？

これもある講演会で聞いた話である。都立教育研究所の宇井治郎先生から、「算数科でも、社会科でも、単元の目標を達成する教師の個性が授業ににじみ出ている。本時のねら

いは同じであっても、提示される教材は先生一人一人によってちがっている。

ところが道徳の場合はどうか。ねらいから、資料から、発問の組み立てまで、みんな同じに見えてならない。教師の個性が最も発揮されるべき道徳の授業があまりにも没個性で、形式に流れてしまっているのではないか…。(以下、省略)

というお話を聞いた。本当にその通りだと思った。

しかし、われわれの先輩が苦心、工夫して創りあげてきた道徳の指導過程にはそれなりの理由があるであろうし、導入・展開・終末のし方にはちゃんとした意味があるだろう。それらを見下して傲慢にも勝手な指導過程を組んでは痴愚に過ぎる。

進歩とか発展というもの、やはり「温故知新」が正しいのではなかろうか。しかし、温故知新には、教師の「魂」と前進の気迫、大胆さと細心さとが常に備わっていなければならない。

教育技術は、この魂の裏づけがなければ効果は半減する。しょせん教育技術は、常に改善・変化の可能性を内在しているものである。そして、その可能性に挑戦できるのは、その教育技術のレベルにまで高まった人であろう。その改善も、形式の改善だけでなく、(たとえ同じ形式であったとしても)今までの形を全く新しい目で見ることができるようになればそれは自己の改善、変革と考えてよいであろう。

荒削りであるが、情熱に燃えた若い先生の授業を参観させていただくたびに、この改善、変革の可能性を信ぜずにはいられない。

## 3 自作マンガを使った道徳授業から学んだこと

7月8日、東京都小学校道徳教育研究会研修部の授業研究会(調布市立第一小学校)に出かけた。

清水保徳教諭 24歳、新卒2年目の熱中先生である。6年2組担任、5年生からの持ち上がり学級だという。

(1) 主題名 カゲロウ

(2) 主題設定の理由

ア 前段にはねらいに対する指導観が述べられている。

(要旨)

「生き物を大切にすること、生き物の世界を知り、積極的に生き物の価値を認めるということではなかろうか。」

イ 中段には児童の動植物愛護についての実態が述べられている。

「子どもたちは動植物が好きで、教室で花を育てたり、魚を飼ったりする。また係でなくても、水をとりかえたりするやさしい心がいつもみられる。しかし、花が枯れても、魚が死んでもそのまま。あきてしまえばめんどくさいもみないという面もみられた。頭では生き物を大切にすることをわかっているが、行動に持続性がなく不完全である。」

ウ 後段は漫画資料（自作）についての解説

昆虫採集を通し、どのように生き物に接していけばよいかを考える資料である。漫画にしたのは親しみやすいからである。道徳と身構えるのではなく、児童が積極的に主題に取り組むことができ、ホンネを語りやすくするところに主な理由がある。

（注：その漫画資料は49コマからできている。しかし、雑誌には掲載したが、この紙面に漫画資料を転写する技術が今の私にはなく、残念ながら掲載できない。いつかその技術を習得したら原稿の差し替えをしたいと思う。）

(3) 本時のねらい

動物の命を尊び、そまつにしない態度を養う。

さて、授業開始5分前に教室に入った。すでに調布市の道徳研究部の先生方や校内の先生方が着席しておられる。幸い、私の好きな廊下側前方の椅子が空いていたのでそこに座った。その席は児童の表情がよく見え、声の小さな児童の発言もよく聞こえる位置である。その席への着席は最初の頃は少し勇気がいったが、慣れると何でもない。すぐ目の前は「うえ〜ッ」と声を出す、「ごめんね。気にしないでやって。」と小声で言うと安心した顔でニコニコとする。

子どもたちも清水先生もやや緊張気味である。

T さあ、始めよう。今日は「カゲロウ」という漫画を作ってきました。最後に書くところがあるけど、書くところは少ないので、2回くらい読んでから最後のところを書いてください。（各自10分間ほど自習。頃合いを見計らって、）

T これは先生とみんなの共同作品だから、表紙のところに名前を書いてください。

よく見ると表紙に「清水保徳+〇〇〇〇」と書いている。なるほど、共に考えるという、子どもたちを大事にする先生の配慮が感じられる。

T 一番どこが印象に残ったかな。

C カマキリがチョウを食べているところ。

C クモがカゲロウをたべるところ。

C チョウが羽化するところ。

C （友達に）「まだたくさんいるから気にしないでよ」と言ったところ。

第1次感想を発表させるのは、資料と出会った時の児童の直観を教師が把握するためなのか。もしそうなら、これらの発言を次の指導過程にどのように結びつけようとしているのか。この辺りの理由づけが曖昧だと第1次感想を発表させる意味はない。清水先生に限らず私も含め、今多くの指導過程で用いられている方法であるが、はっきりした理由づけをもっと研究したいところである。

T クモがカゲロウを食べるところで、おじいさんが「手を出しちやいけないよ。」って言うてるね。どうしておじいさんはこんなことを言うのかな。もし君たちならどうするかな。

C そのまま見る、どうやって食べられるか。

C 分からない。

C 助けてやりあげたいけどだめなんじゃない。でも、体の羽がとれたらかわいそう。

C 助けてあげたいけど、クモは食べものがなくなる。助けてあげられない。

（挙手により、助ける5名。助けない多数。）

この発問が気になった。まず、全く異なる2つの発問を同時にしている。「どうしておじいさんはこんなことを言うのか。」と「もし君たちならどうするか。」である。児童の反応にも2通りの異質な反応が見られた。したがって、発問は1つに絞って話し合わせた方がよいと思う。

更に、「もし君たちならどうするか。」という発問はちょっと答えにくい。また、無理して答えさせてもあまり意味がないであろう。こういう発問は私もよく使った発問であったが、伝家の宝刀の如く切れ味するどくホンネが引き出せると思いきや、さにあらず、「分かりません」とか「考え中です」などの反応が多い。子どもたちにとって、登場人物の気持ちや考えを追及することで精一杯の状態の中でのこのような発問は酷である。

また、なぜ道徳の時間に資料を使うのか、一言で言えば、一人一人千差万別の体験をもっている子どもたちを共通の土俵に乗せ、登場人物の気持ちや考えを様々に想像し語らせることを通して、無意識のうちに自分を考えさせるためである。

したがって「もし君たちなら…」という発問をす

るなら、これらの理由の他にもっと明確な理由(意図)づけと位置付けをして発問するとよいだろう。

T (最後の吹き出しに書いた言葉を発表させた後で)  
この子は一体、どんな気持ちで虫たちをつかま  
えようとしたのか。

C 友だちに自慢したくて。

C ちっとも虫の気持ちを考えないで。

T 逃がすならつかまえてよいのか。飼ってあげ  
て、死んだら墓を作ってあげたら、無視を大切に  
することになるのか。

C 逃がすなんて、簡単だからよくない。

C 1番いいのは始めからとらないことだ。しか  
し、とったら逃がさずに飼った方がいい。弱って  
しまうから。

C もし、とったら逃がした方がいい。

清水先生、汗だくの苦闘場面だった。指導案に書  
かれている予想される児童の反応とは異なった反応  
がポンポン返ってくるのである。たぶん、驚きとど  
まどいが先生の胸中をかけめぐっていたのではない  
かと思う。

まず、児童の意識の実態把握が不十分であったこ  
とが原因の一つと考えられるであろう。児童理解は  
教育の出発点であり、また、研修の究極の目標であ  
るから、今はこれで精一杯だとしても、次は児童理  
解を最大に気にしなくてはいけないだろう。がんば  
ってください。

また、児童の反応を見ると、発問に対して3種類  
のちがった反応が返ってきている。ここが大事なポ  
イントだった。この時はただ言わせっぱなしで終わ  
ったが、もう一步つっ込んで、例えば「どの考えが  
大事だろう」と補助発問を投げかけたならば、もっ  
と深まった考えを生み出したのではないか。今まで  
Aの意見だった児童がBの意見が大事だと気づい  
たかもしれないし、Aの意見がより確かなAの意見  
に変わったかもしれない。先生と子どもというつな  
がりだけでなく、子ども相互の意見交換の場を用意  
していたらと思う。

しかし、清水先生は胸中とはうらはらに？、よく  
子供たちの意見を聞き、そして尊重しておられた。  
じれったかっただろうに、じっとがまんの先生だっ  
た。けっして自分の意見を押しつけることなく、授  
業を進めたことには敬服した。

T 解剖や標本などはいけないのだろうか。

C 昆虫採集は死んだ虫ですればいい。

C 勉強に使うならしょうがない。

C 虫を殺すってことは、虫にとってはいやなこと  
だ。

C 虫をつかまえるのは楽しいから採るのだから、  
虫にがまんしてもらいたい。

C 虫のことを知るのだから、がまんしてもらいた  
い。

まったく素直な子どもたちである。清水先生を根  
っから信頼している。子どもたちは清水先生の前に  
隠すことなく自分を表現する。先生は一つ一つの発  
言に真剣に耳をかたむけながら、精一杯の誠意で理  
解しようとなさっている。先生もよく分からないけ  
ど、ただ一緒に考えることはできるって、そんなふ  
ん囲気が伝わってくる。

本時のねらいにはほど遠い授業からは、本時の指  
導案ができるまでの困難がしのばれた。

効率？の悪い授業だったが一人一人の子どもを大  
事にし、全員に発言させた。子どもと一緒に進んで  
いこうとする清水先生の姿勢が尊かった。

授業の最後に先生は少年時代の説話を語り、授業  
は終わった。その説話は大変臨場感あふれたもの  
でとてもすばらしかったが、紙幅の都合でここに  
紹介できないのが残念である。

#### 4 飛躍のために (研究協議会より)

すでに記した事柄は省くが、磯崎乙彦校長先生の  
指導・講評である。

「動植物愛護、自然愛護」と「生命尊重」とが混  
在して指導計画にもり込まれたところに指導の焦点  
がボケた原因がある。どちらかにきめてから資料作  
りに取りかかったならば、きちんとした内容の資料  
が生まれたのではないか。

漫画の性格は、速度、変化、奇異に特徴づけられ  
る。その意味から、従来漫画は非教育的であり、資  
料として不都合であるという意見が大勢を占めてい  
た。しかし、その不都合さをしっかり意識して、そ  
れらを克服すれば漫画だって資料としてちゃんと通  
用すると思われる。

今から伸びゆく人達よ、われわれの先輩が長い年  
月をかけて生み出してきた様々な教育遺産を正しく  
学び取り、次の世代に継いでいこうではないか。

(東京都世田谷区立東大原小学校教諭)